

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	良く なっている			
	やや良く なっている	商店街（代表者）	それ以外	・アルバイト募集をしてもなかなか応募がなく、失業率が下がっている傾向がうかがえることから景気はやや良くなっている。ただ、参議院選挙の影響で夜の客足が悪くなっているとの声も聞こえてきている。
		百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・客単価の上昇傾向が継続しているなかで、苦戦していた購買率が回復してきている。降雨と低温の影響により季節商材の動きは鈍いものの、客の購買にかかる機会損失が少なくなっている。
		スーパー（役員）	お客様の様子	・北海道新幹線の開業により観光客が増え、街全体が活気付いてきており、少しずつプラスの効果が広がっている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・気温の上昇とともに来客数が増加してきている。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・6月は天候に恵まれない、異常気象の月だった。毎日のように雨が降るなど、北海道にも梅雨が来たような感じで、気温も低く、朝晩にはストーブが必要なほどであった。ただ、催事については来客数、客単価とも増加しており、売上は前年を上回った。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・4月以降、観光客の入込が良く、6月の来客数は前年を16%上回った。当地でのイベントの効果もあり、客からはホテルが取れないとの話も聞こえてくる。一方、客単価は横ばいで推移している。
		観光型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・近隣アジアからの外国人観光客は減少傾向にあるが、減少分を国内客の個人旅行でカバーすることができている。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・3～4月の観光需要の端境期からグリーンシーズンを迎え、観光の繁忙期となってきている。ただし、前年と比較すると、景気の停滞感などによりやや前年を下回る傾向で推移している。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・消費税増税の再延期により安心感が広がっている。IS関連のテロで大きな事件が少なくなってきたこともプラスである。また、伊勢志摩サミットが無事終了し、その前後で伊勢や広島がテレビで放映されたことが国内旅行のきっかけになっている。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・来客数が若干減っているものの、売上が前年並みをキープしていることから、客の消費単価が上がってきている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・3か月前と比べると、夏場を迎えて観光客の入込が良くなってきている。ただ、毎年、この時期は上向き傾向になるため、全体的に景気が回復しているわけではない。地元客の動きがみえないなど、地方経済は横ばいの状況にあり、業界を取り巻く厳しさは変わらない。
		通信会社（社員）	来客数の動き	・来客数の増えている店舗が多く、来客数全体が前年と比べて伸びている。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・6月中旬から毎日のように天候が悪く、来客動機が低くなりがちな状況であったにもかかわらず、6月26日時点の来客数は前年比102.7%となっており、まずまずの天候であった前年とほぼ同様な利用客数の伸びがみられたことから、景気はやや良くなっている。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・前年よりも若干ペースが落ちているが、旅客、車両ともに好調に推移している。
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・北海道新幹線開業により、函館では飲食店、ホテルなどがにぎわっている。ただ、それがまだ消費や小売、建築などには結び付いていないのが現状である。	
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・客の話の内容が前月と変わらない。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・今年に入ってから売上が弱含みで推移しており、前年までの勢いがみられなくなっている。外国人観光客による効果も少なくなっている。消費動向が何かおかしくなっているように感じる。

百貨店（売場主任）	お客様の様子	・来客数は前年並みであった。外国人観光客による売上が大幅なマイナスとなるなか、地元客による定価品の売上がほぼ前年並みとなるなど、堅実な結果がみられた。一方、父の日ギフトは主力の紳士雑貨がマイナスとなったものの、中元商戦の立ち上がりはほぼ前年並みであった。洋服は客が値下げのタイミングを待っているようである。
百貨店（担当者）	来客数の動き	・3か月前との比較ではほとんど変化がみられない。
スーパー（役員）	販売量の動き	・6月は一般食品、菓子などの動きが良いものの、例年と比較して気温がやや低いことから、酒類や飲料などの動きが厳しい。全体的には、ここ3～4か月、客1人当たりの買上点数、来客数、客単価が前年を上回っているなど、変わりのない状況で推移している。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・6月は天候不順により飲料水やビールの売上が減少したものの、生鮮品や米飯の売上は前年並みを維持している。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・来客数が非常に少なく、厳しい状況に変わりがみられない。
家電量販店（店員）	来客数の動き	・来客数が前年を下回ったものの、売上は前年から微増している。
乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・景気動向や販売量に大きく影響する要素は見当たらないが、消費者の購入意欲がなかなか上向いてこない。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・一向に販売台数の上向いてこない状況が続いている。
乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・賞与が前年並みの金額で支給されるなど、変化がみられないため、景況感も変わらない。
自動車備品販売店（店長）	お客様の様子	・例年であれば、春のタイヤのはき替え時期から来客数が一時的に増えるが、今年の来客数は前年の90%台であった。最近では2か月単位で来客数をみると、横ばい減少の状態が続いている。
その他専門店 〔医薬品〕（経営者）	それ以外	・客離れの防止策が急務となるなど、小売の難しさを感じる日々だ。地味かもしれないが、個々の客を逃がさないような工夫が求められている。
その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・石油製品価格が安定して推移していることから、景気は変わらない。
高級レストラン（経営者）	お客様の様子	・特別、景気が上向きになるような材料がない。英国のEU離脱問題の影響により、今後、円高が進むことが懸念されるなど、不安材料の方が多く、景気が上向きになる要素がない。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・6月は特定の日に予約が集中したが、月全体でみるとぎりぎり前年並みの売上となった。当店は値下げしてから来客数がやや増えているが、長いゴールデンウィークの余波で客足が遠のいており、思うように売上が伸びなかった。参議院選挙の影響もあるかもしれないが、これまでの衆議院選挙や統一地方選ほどの影響はみられない。
旅行代理店（従業員）	単価の動き	・受注件数、取扱額ともに大きな変動がないため、景気は変わらない。
タクシー運転手	来客数の動き	・6月は当地で大きなイベントがあったほか、例年よりも雨の日が多かったにもかかわらず、タクシーの売上は前年比で若干のマイナスとなった。
タクシー運転手	来客数の動き	・ここ3か月、来客数は例年並みで推移している。国内旅行者による利用が減少するなか、外国人観光客による利用が増えている。
タクシー運転手	販売量の動き	・街全体の景気がここ半年くらいほぼ横ばいで推移しているため、販売量も前年並みで推移している。ただ、当社としては宣伝を積極的に行っているため、これから夏に向かって上向きになりそうな気配がある。
パチンコ店（役員）	単価の動き	・英国のEU離脱問題による円高の影響がどれほどのものになるかが気掛かりである。原油価格が上昇すれば、中小の加工業や運送業に大きく影響することになる。特に運送業で値上げが行われることになれば、道内の観光業に与える影響も大きく、外国人観光客の足が遠のくことが懸念される。
美容室（経営者）	来客数の動き	・5月の来客数がかなり悪かったが、6月になり例年並みの来客数に復活した。今後も同ような来客数で推移するとみられる。

やや悪くなっている	美容室（経営者）	単価の動き	・天候の変化によって、客のメニューが多少なりとも変化する状況にある。	
	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・ここ数か月の分譲マンションの販売量の動きをみる限り、販売戸数は安定している。	
	商店街（代表者）	単価の動き	・これまで客単価が上がっていたが、ここにきて客単価が10%程度落ちてきている。	
	商店街（代表者）	来客数の動き	・例年であれば、比較的消費が活発になる時期であるが、上旬から中旬にかけての天候不順の影響もあり、地元客による来街に今一つ伸びがみられなかった。また、外国人観光客の入込も期待値よりも低く、ほとんどの業種で売上アップには至らなかった。	
	商店街（代表者）	販売量の動き	・今年の北海道は寒い日が続いていることで、作物の生育にも大きな影響がみられ、農産物の価格が高騰している。また、夏物商材も衣類や家電などで販売不振が起きているなど、心配な状況にある。	
	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・若者が札幌や東京などの大企業に流れていることで、当地においても人材の引き抜き合戦が起きている。人手不足と賃金の高騰、仕入価格の値上がりなどが続いており、倒産が発生している。また、当市の財政に対する不安も広がっている。	
	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・来客数の減少が続いている。一方、外国人観光客は来客数が持ち直しているものの、客単価が極端に下がっている。	
	百貨店（役員）	競争相手の様子	・来客数が圧倒的に減っている。	
	スーパー（店長）	販売量の動き	・売上や来客数が前年の90%台前半となっている。販売量も前年比94%と前年の95%にも届いていない。3か月前と比較しても販売量は5%ほどダウンしている。	
	スーパー（店長）	お客様の様子	・改装や新しい取組などに対する客の反応はあるが、全体への効果が低い。特に重販の季節商材の動きが悪い。	
	スーパー（店長）	お客様の様子	・父の日ギフトの高単価商材の動きが悪い。また、ギフトの売上が前年を下回るなど、需要が少なくなっていることもうかがえる。	
	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・足元の状況をみると、買上客数及び買上点数ともに低下傾向が出始めており、無駄な消費を控える客の傾向がうかがえる。	
	コンビニ（オーナー）	来客数の動き	・6月の売上は前年比95%であった。当店の300m先に同一チェーンの店舗があるなか、6月1日には逆方向の150m先に同一チェーンの新店舗がオープンしている。コンビニだらけという声も多い。	
	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・今年のクールビズ商戦では客の来店はあるものの、ワイシャツ用品ばかりが売れており、サマージャケットなどの高額商材は以前に購入したものを利用する客がとても多い。	
	悪くなっている	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売量が減少気味である。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・来客数が減っていることもあり、販売台数が減少している。こうした傾向が業界全体的にみられている。
高級レストラン（スタッフ）		お客様の様子	・目にみえる要因があるわけではないが、前年にみられたような来客数の伸びがみられない。	
旅行代理店（従業員）		販売量の動き	・関係各所に聞くと、当店だけではなく、地域における業界全体の売上も前年に比べて悪いようである。	
タクシー運転手		販売量の動き	・前年比での減少幅が拡大してきている。	
タクシー運転手		販売量の動き	・ホテルなどの来客数が前年と比べて減少している。	
通信会社（企画担当）		競争相手の様子	・通信費の低価格合戦が過熱し、札幌圏の若者や若い家族層を中心に他社の最も安い通信サービスに契約を変更する流れが加速してきている。	
商店街（代表者）		来客数の動き	・来客数が減っている。外国人観光客の動きも悪く、以前のような買物の傾向もみられなくなった。	
百貨店（売場主任）		来客数の動き	・6月に入り、曇りや雨の日が多く、気温の低い状態が続いていることで農作物の生育が遅れているなど、農家を巡る環境が良くない状況にある。また、天候の影響で半袖などの夏物の動きが顕著に落ちており、前年の90%台にとどまっている。ただ、中元商戦はほぼ前年並みの数字で推移している。	
コンビニ（エリア担当）		販売量の動き	・天候の悪化が続いていることで、沿岸部の昆布漁、内陸部の牧草作業が全く進んでおらず、売上への影響も大きい。北洋漁業の代替であるさば漁、いわし漁も不調である。	

		観光型ホテル (役員)	来客数の動き	・円高傾向が続いており、団体の外国人観光客を中心に集客が落ち込んでおり、売上が減少している。
企業 動向 関連 (北海道)	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	建設業(従業員)	取引先の様子	・道内の建築鉄鋼業界は域内の工事で年末までの予定が埋まっており、域外の工事まで受注する必要がなくなってきている。
		輸送業(支店長)	受注量や販売量の動き	・夏場の工事物件の輸送が動き出しているため、3か月前の春先よりも忙しくなってきている。
		通信業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・受注量と問い合わせ件数が増加してきている。
		その他サービス業[建設機械リース](営業担当)	受注量や販売量の動き	・遅れていた建設工事がようやくスタートしてきた。
		その他サービス業[建設機械レンタル](総務担当)	受注量や販売量の動き	・売上が前年を若干上回っている。
		その他非製造業[鋼材卸売](役員)	受注量や販売量の動き	・客先の鉄骨加工業及び機械加工業の仕事量はともに堅調なため、全体的に売上が増加している。
変わらない	輸送業(営業担当)	取引先の様子	・大雨などの天候不順の影響のためか、飲料品の道外輸送が予想に反して思わしくない。一方、生乳は生産量、道外向け輸送とも前年を上回っている。	
	金融業(従業員)	それ以外	・スーパーなどの売上は前年を上回る状況が続いており、公共工事請負金額も前年を上回る状況に転じてきている。また、増勢に衰えはみられるものの、来道外国人も引き続き前年を上回っている。こうした好材料がある一方で、設備投資の減少がみられるなどのマイナス材料もあり、全般をとおしてみれば大きく変わらない水準にある。	
	司法書士	取引先の様子	・景気の停滞感と社会構造の変化に伴い、関連企業の営業成績が伸び悩んでいる。不動産取引、建物建築においても変化がみられない。	
	司法書士	取引先の様子	・不動産の売買、建物の新築が低調なままである。	
	コピーサービス業(従業員)	受注価格や販売価格の動き	・内容より価格を重視する客先の傾向はまだまだ変わらない。最低限度の設備投資はするものの、慎重な姿勢は変わらない。	
	その他サービス業[建設機械リース](支店長)	受注量や販売量の動き	・公共工事の鈍化により受注量は低位のまま推移している。	
やや悪くなっている	食料品製造業(従業員)	受注量や販売量の動き	・前年と比較して売上が数%減ってきている。	
	家具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・外的な経済環境の変化の影響を受けて、富裕層を中心とした需要に陰りがみえ始めた。また、当社では今年度から値上げを行っているが、値上げを前にした駆け込み需要の反動で第1四半期は低調であった。	
	建設業(従業員)	受注量や販売量の動き	・公共工事が減少傾向にあることに加えて、民間建築工事については商材が引き続きあるものの、受注価格に対する削減要求が厳しくなってきている。	
	司法書士	取引先の様子	・英国のEU離脱問題などの悪材料が多く、景気回復の兆しが全く感じられない。消費税増税の再延期の決定など、心理的な好材料も少しはあるが、不動産投資の件数が少ないなど、景気回復の要因が見当たらない。	
	その他サービス業[ソフトウェア開発](経営者)	競争相手の様子	・3月ごろまでは案件の話があっても、人手が確保できなかったが、現在は人手に空きがある会社が見られるようになってきている。	
	悪くなっている	-	-	-
雇用 関連	良くなっている	-	-	-

(北海道)	やや良くなっている	人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・登録者は横ばいで推移している。求人数、派遣依頼数が増加しているのに対して、登録者の動きが鈍いことから、独自ルートで就職が決まっているとみられ、企業の求人意欲がまだ高いことがうかがえる。その反面、企業の採用基準も高くなっており、有効求人倍率が高いといえども、スキルの低い人材が採用されることはなく、採用のミスマッチが発生している。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・新規求人数は4か月ぶりに前年を4.0%下回ったが、月間有効求人数は前年を1.8%上回り、10か月連続で前年を上回った。
	変わらない	求人情報誌製作会社(編集者)	求人数の動き	・求人件数はほぼ前年並みであり、ここ3か月、肌で感じるような変化もみられない。
		新聞社[求人広告](担当者)	求人数の動き	・募集広告売上は前年比93.7%であった。売上上位の派遣、運輸、医療の3業種で軒並み15~30%の減少となったことが大きく響き、他業種で若干上積みがあったものの、減少分をカバーするまでには及ばなかった。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・新規求人数が前年と比べて増加している傾向が続いている。
		職業安定所(職員)	雇用形態の様子	・求人倍率は上昇傾向にあるが、人手不足感が求人募集の賃金上昇に反映されていない。求人に占める非正規の割合も増加傾向にある。
	やや悪くなっている	求人情報誌製作会社(編集者)	求人数の動き	・このところ求人件数が前年、前々年の水準を下回ってきている。
		求人情報誌製作会社(編集者)	求人数の動き	・全体的に求人意欲が低下している。特に個人消費関連のスーパー、小売店、ファッション関連などの落ち込みが目立つ。飲食店や宿泊は軟調に推移している。
		求人情報誌製作会社(編集者)	求人数の動き	・景況感が良くなく、また人を募集しても集まらないなどの理由から、前年と比較すると2割ほど求人数が減っている。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・有効求人倍率が75か月連続で前年を上回っているが、増加を続けていた新規求人数、月間有効求人数ともに前年比でマイナスに転じている。求人のうち正社員が占める割合も低下している。
悪くなっている	-	-	-	